

ディスカッサントとしての関心

全てに始まりと終わりがあるとしたら、油絵はいつ終わるのか？あるいは、もう終わっているのか？第二次世界大戦後の美術を研究している者の関心から、この問いについて考えてみたいと思っています。

The concerns as a discussant

If everything has a beginning and an end, when does oil painting end? Or has it ended already? As a scholar of post-WWII art, I would like to consider this question for the symposium.

池上裕子（神戸大学国際文化学研究科准教授）

Hiroko Ikegami

1999 年大阪大学大学院修士課程修了。2005 年同大学院博士課程単位修得退学後、07 年イェール大学美術史学科にて博士号を取得。ニューヨーク近代美術館非常勤講師、大阪大学特任助教などを経て、10 年より現職。また、06 年に日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴを設立、副代表を務める。専門は戦後アメリカ美術と国際美術シーンのグローバル化、戦後日米美術交渉についての調査・実践など。05 年、美術史学会にて『美術史』論文賞受賞。

主著： The Great Migrator: Robert Rauschenberg and the Grobal Rise of American Art (MIT Press, 2010); Shinohara Pops! The Avant-garde Road, Tokyo/New Yorks (SUNY Press, 2012) ほか。